

各位

2008年5月15日  
日産化学工業株式会社

中期経営計画 Vista2010 Stage II の策定  
—成長への確かな布石—

当社グループは2005年3月、2010年までを展望する中期経営計画Vista2010を策定し、真の価値創造型企業としての実力を高めるための取り組みを強化しました。

前半の3ヵ年(2005年度から2007年度)をStage I と位置づけ、増益基調維持のための諸施策を講じ一定の成果を上げてきました。引き続き後半3ヵ年(2008年度から2010年度)のStage II が本年4月よりスタートしました。

Vista2010は2010年のあるべき姿を、コアの事業・技術領域である有機材料・無機材料・電子材料が拡大成長を続け、農薬・医薬事業が中長期的に着実に伸長し、基礎化学品・関係会社が安定的な収益基盤となるバランスのとれた事業ポートフォリオが構築されていることとしています。Stage II では将来に亘る持続的成長を確かなものとするために次の3項目を重点課題に掲げ、あるべき姿の実現に向け邁進します。

1. 新たな成長の源泉となる新規事業・新製品創出の強力な推進
2. 現有製品の揺ぎ無き事業基盤の確立
3. 人材の育成強化による活性化されたプロ集団の形成

これらを実現し、2010年度は売上高2,000億円、営業利益330億円、当期純利益210億円、ROE17%以上の達成を目標といたします。

1. 新規事業・新製品の創出

(1) 基本方針

- 1) コアの3材料は研究・開発・技術面で圧倒的優位に立ち、次世代技術に対応した独自の製品創出により、新たな価値、製品・サービスを顧客に提供し続けます。
- 2) 保有するコア技術と先端技術との融合により新しい市場ニーズと合致した機能材料を創出し、新規事業の立ち上げに注力します。
- 3) 当社の基盤技術である精密有機合成、微粒子制御、機能性高分子設計の水準を高め、さらに有機ナノテクノロジー、高分子合成技術を付加し技術力を強化します。
- 4) 当社技術のプラットフォームである有機合成に関わる研究員を増員し、新規医農薬の探索、新規機能性有機材料の開発、研究開発参加型受託事業ファインテックを強化するとともに、成長の中心となる電子材料関連の研究員を充実します。

(2) 重点行動計画

1) 新規機能性有機材料

基礎研究から応用研究に移行する九州大学との組織対応型連携への取組みを強化します。  
重点テーマを有機ナノ微粒子、環境調和材料、有機導電材とし新規事業の創出を強力に推進します。

## 2) 新規電子材料

撮像素子用材料、Si-ARC、3次元実装材料等の開発を進め、この分野の将来の柱を育成します。

## 3) 外部機関との連携

特長ある技術を有するベンチャー企業、研究機関、大学等の外部機関との連携を強化します。

## 4) 研究開発投資の拡大

研究開発投資総額 Stage I 316億円 Stage II 415億円

研究員 2007年 360名から 2010年 450名を超える規模への拡大を図ります。

## 2. 現有製品の事業基盤確立

### (1) 基本方針

- 1) 有機材料・無機材料・電子材料を引き続き成長のドライバーと位置付け、経営資源を傾斜配分し、製造設備増強、海外拠点拡充、研究員・製造要員増員などの基盤強化策を講じます。
- 2) 農薬は新剤を含めた自社開発品を中心とする拡販に努めるとともに、研究効率を高め新製品の開発を加速します。
- 3) 医薬品はリバロ原体の販売拡大を基本に、開発品の着実なステージアップと継続的なパイプラインの創出により、将来の飛躍に向けた事業基盤の確立を急ぎます。
- 4) 基礎化学品は選択と集中を明確にしたうえで攻めるべき分野の市場開発を促進するとともに徹底したコスト削減を追求します。
- 5) 関係会社は、それぞれが特色ある企業として競争力を強化すると同時に、相互連携によりグループとしての総合力を高めます。

### (2) コアの事業領域、新製品への積極投資

3年間累計投資額 650億円(自己株取得費用を含む)

製造設備(ポリイミド・ARC・スノーテックス・TEPIC・ライメイ、スターマイト・NT-702等)

研究設備(電子材料研究所増設・台湾技術サポートセンター設置・各種評価機器等)

## 3. 人材育成・活性化策

### (1) 基本方針

- 1) 夢とビジョンを共有し、一人ひとりが誇りを持って自らの役割を遂行するプロ集団を構築します。また、若年層の増加、事業のグローバル化に対応し、人材を育成する文化を醸成します。
- 2) 全員がそれぞれの舞台で最大限の力を発揮し、適切な評価により処遇される人事制度を導入します。

### (2) 重点行動計画

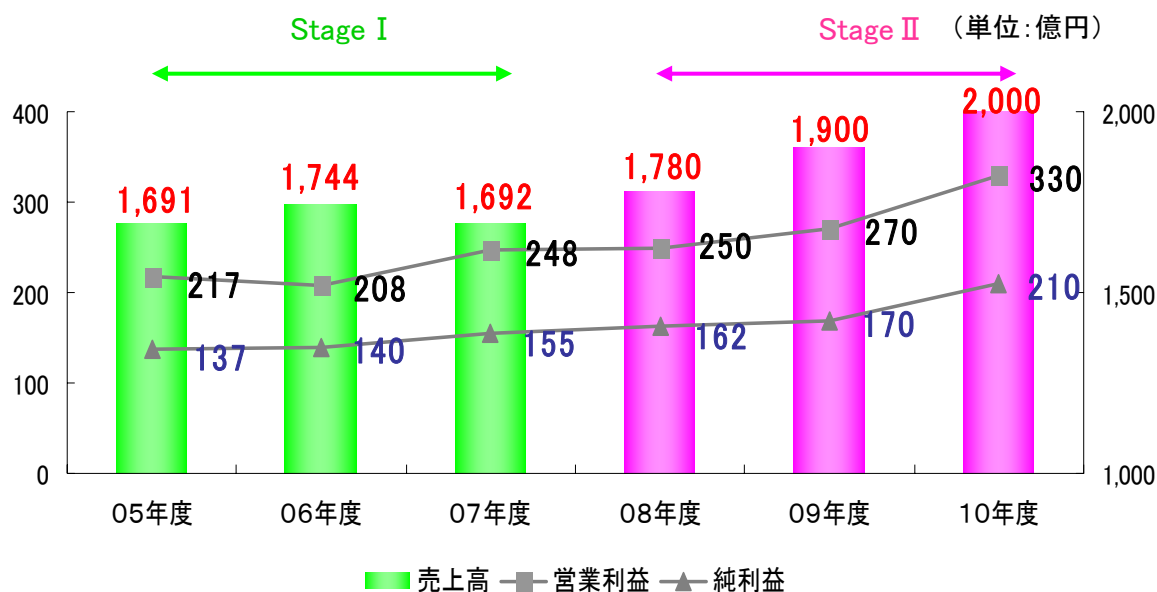
#### 1) 人材育成の強化

初期教育を中心とする各種研修の強化、研究員の大学・研究機関等への派遣拡大などの諸施策を講じるとともに、人材育成を改めて職場の最優先ミッションと位置付け、新たな価値を創造する力の最大化を図ります。

#### 2) 新人事制度の導入

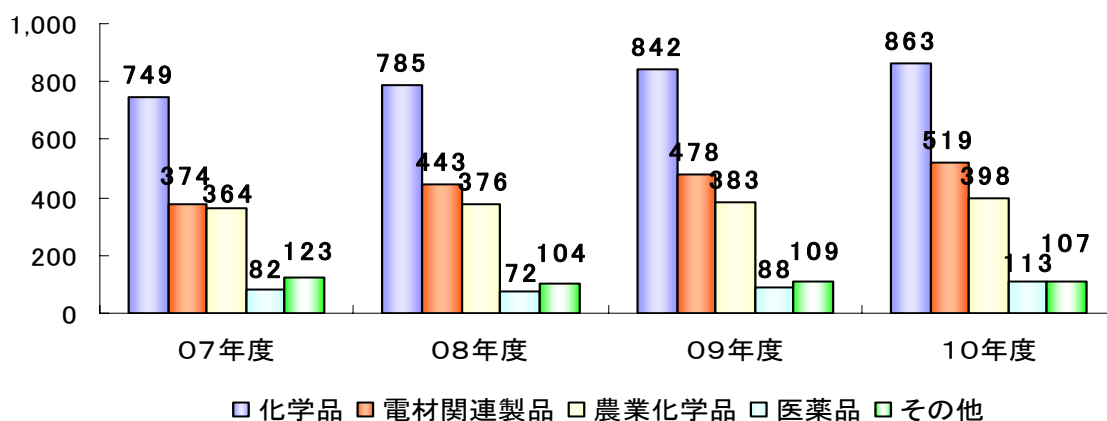
創造貢献集団と運用貢献集団を分類することで役割を明確化し、各場面で力を発揮する人材を処遇する透明性と納得性の高い評価制度を構築します。

#### 4. 年次別損益目標



#### 5. セグメント別売上高

(単位: 億円)



#### 6. 目標達成の基礎

##### (1) 材料3分野の拡大

電子材料 (PI—VA用途・IPS用途、ARC—ArF用途)、無機材料 (スノーテックス等—電子・情報分野、環境・エネルギー分野)、有機材料 (テピッカー—電子材料分野)

##### (2) 農薬新製品の寄与

殺菌剤「ライメイ」、殺ダニ剤「スターマイト」の上市、新剤の導入

##### (3) 医薬品の伸長

リバロの欧米向出荷開始、閉塞性動脈硬化症治療薬NT-702・抗心房細動薬NTC-801・血小板増多薬の開発ステージアップによる一時金の獲得

##### (4) 基礎化学品の収益向上

半導体洗浄用高純度薬品 (硫酸・安水・液安)、高品位尿素水AdBlueの販売増

## 7. 経営指標

- (1) 資本の効率活用を示すROEを重視し、向上のための施策を実施します。  
2010年度目標ROE 17%
- (2) 自己株式の取得、配当性向の引上げなどを実施し株主への適切な利益還元策を講じます。  
2010年度目標配当性向 30%
- (3) 継続的な新規事業・新製品の創出のため、売上高研究開発費比率 7%を維持します。
- (4) 高付加価値製品の拡販、選択と集中によるコスト削減等を推進し、売上高営業利益率を高めます。  
2010年度目標売上高営業利益率 16%

当社グループは、新規事業・新製品の創出、現有製品の強化、人材の育成を中心に据えた本計画を着実に遂行し、新たな価値を創造することにより持続的に成長する企業を目指してまいります。

以 上